



キーパーソンとその役割

● 中岡和己氏(現・敷信村農吉代表)

前職(高校生の進学指導)を通じて、10代以降に起こる様々な問題が、幼少期に起因することに気づく。農を取り入れ、子どもの主体性を伸ばす保育を構想、農吉の創業に関わる。創業後は、社員や地域の「個性を伸ばす」方針で事業を展開。

● 清光幹雄氏(元・敷信村農吉代表(故人))

創業当時の敷信自治振興区長。地域のまとめ役。統廃合される保育所を自分たちの手で運営したいという地域の声を、形にしたいと考えていた。地域住民や行政と、創業まもない農吉を繋ぐ役割を果たした。

注目すべき特徴及び効果

- 農を取り入れた「保育」を通じて、こども達や地域へ食育を推進していること
- 「小さい農」で若いうちから「家族で食べていけるモデル」を目指し、自治会をはじめ地域密着型の取組を形成していること
- 地域野菜の給食活用や卸・販売、さらに農吉で製造・販売している地域の生乳100%のナチュラルチーズは、各種コンテストで金賞を受賞するレベルで、企業理念に賛同する取引先は拡大。農業事業の売上は年間約8千万円に及び、地元農家の収益向上、地域の活性化につながっていること
- 農吉のスタッフ数は現在約100人と、地域の雇用の確保に貢献していること

今後の展開

- 保育所運営から14年目を迎え、小中学校も運営して欲しいとの声もあり、子ども達の教育により発展的に携わっていきたい。



審査委員の評価

農食連携という意味で理想的な農を取り入れた保育園で評価に値する。フオリティの高い食を地域と連携して活用し、地域の誇りの形成は意義深い。



令和2年度

地産地消 優良事例

生産者と消費者の“地域交流”から
生み出される“新しい農業のかたち”

発行

農林水産省 食料産業局 産業連携課
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
TEL: 03-6744-2352(直通)
<https://www.maff.go.jp/>

企画・制作

株式会社 野村総合研究所
〒100-0005 東京都千代田区大手町1-9-2
大手町フィナンシャルシティグランキューブ
TEL: 03-5533-2111(代表)
<https://www.nri.com/jp>

2021年3月